

小作農と食費

千重友 公

買得る俺らはいつも

かたい木綿のボロ着物

しかも平生ぶら／＼してゐる奴らが、きまつて胡落をきるのを見ては、諸君は悲憤の涙と共に「畜生……タソ」と叫ばざるを得まい。

色々な細い手間や心配や、えらい忙しい眠い思ひをし、體を病したり病氣になつたりまでして、やつとこゝまで折角

農を收穫しても、諸君の着物とするためでなく、みんな賣つて金に代へて了ふのだもの

何てつまらないことだらう。だが諸君は云ふかも知れない「小作など多く作るよりも三四十日の中に、費用を引き去つても可なりな金になる、

賣置の方がすつと割がいいのだ」と。しかしそれは小作だけでは缺損になるのを、うめ

合せて行ける程度に割がいい、と云ふに過ぎない。諸君の懐に入つた可なりな金は、借金

やその利息や年貢の不足分や

高利や税金の任務をすましたら、もう田畑の肥料代にさへ

足りないやうに出て行つて了つて、又候借りなければなら

ないではないか。そして實際残るものは、露のためにすて、おいた田畑が草だらけになり、手がまはらなくなり、多忙になるばかりであるのにもらす溜息のみであらう。やつぱり多忙と困窮と悲愴は諸君を待つてゐるのだから――。

小作農者諸君！ つまり諸君が地主商人税金取その手先の奴らの隷屬者の地位にゐて、收穫物を盗みふんだくられるうちは、いくら骨折つて働いて收穫しても、底なしザルに水を入れるやうなもので現在の地遇から浮び上ることが出来ないやうにきまつて了つてゐるのだ。

諸君！ だから働くことに夢中になるよりも、どうしたか、農業者の地位から脱却して年貢や借金や税金を拂はないで、買ふ時も賣る時も商人が勝手に値をきめて儲ける、つ

ま、安く買はせられ高く買はせられなくすることが出来るか、それを考へることが第一に重要だ。

そして仕方なしに賣るためにやるのでなくて、諸君自らの必要に應じて賣置をやり、その粗の着物を楽しく着られるやうにせねばならぬ。

昨年から消費節約といふことが、走狗共に依つて村から村へと宣傳せられて居る。だが消費節約なんて事は、俺達に宣傳す可き事でないんだ。

俺達小作人は、年がら年中地主共に搾られて、スツカラカシだ。節約するどころでは無い。食ふ食はずの状態だ。

一段歩から普通田で一石四斗の收穫があると、地主に八九斗も地代として年貢米を上げられるんだ。残りの五六斗で肥料代を差引のこりの米が俺達の壽命を繋ぐ糧なんだ。

飢えること、餓死すること以外餘裕がないんだ。生きて

ゐるのが不思議な状態に陥つしるとな、俺達に死ねといふようなものだ。

何を節約だ

岩手・米川 生

鹿兒島縣大島古仁屋港の土地は、無産階級解放を絶叫する勢熱なる我等の同志が、不斷に運動を續けてゐたので社

會主義運動は、實に素張らしいものだ。ことに青年團の運動は、猛烈だ。反動者流の運動なんか殆んどその前に立ち

スクンで終ふようだった。今春海軍の一司令官、中某が、軍艦香取に乗つて統治して、水兵を引き連れて軍事思想講

演説會は、勿論民衆の勝利に歸した。だが彼等反動家共は、理論で負けてもなかに引込まない。彼等は、湖方内部落の一部住民を、そのか

して、終に運動の標に出た。表面に立つて社會主義を叫ぶ人達の家は、彼等の爲に殆んど打壊された。それ處では無い。同志武田君の夫人は竹地

で突かれた。その他にも傷害を受けたり同志は澤山居た。だが、大島古仁屋の同志はそんなことで動易しない。益々團結して彼等と戦つてゐる。

大島古仁屋の反動運動

これに怒り極くのは、勿論官費や金持、イワムル土地の名望家といふ奴等のみだ。彼等は自己の地位をどうにかして、護らねばならない。そこで奴等は或づ、政友會のゾツキ御用新聞大島朝日新聞社に意を留めて、否共同して社會主義講演會を五月二十日湖方内小學校で開いた。

一方社會主義運動に理解を持つてゐる一般民衆、ことに青年團は極度に憤慨した。講演會の前日の知事は民衆が、

演説會は、勿論民衆の勝利に歸した。だが彼等反動家共は、理論で負けてもなかに引込まない。彼等は、湖方内部落の一部住民を、そのか

して、終に運動の標に出た。表面に立つて社會主義を叫ぶ人達の家は、彼等の爲に殆んど打壊された。それ處では無い。同志武田君の夫人は竹地

で突かれた。その他にも傷害を受けたり同志は澤山居た。だが、大島古仁屋の同志はそんなことで動易しない。益々團結して彼等と戦つてゐる。

ゐるものが不思議な状態に陥つしるとな、俺達に死ねといふようなものだ。